

# 菅平生き物通信

金井隆治・正木大祐・佐藤美幸 菅平高原実験センター

## 概要

菅平高原実験センターが発行している「菅平生き物通信」と地域のミニコミ誌に掲載しているコラムについて報告する。

## I. 創刊号～第6号



1. 生き物通信 創刊号

### 発行の目的:

- 生き物への関心を深めてもらい、自然科学の普及と啓蒙を促す
- 筑波大学菅平高原実験センターについて知ってもらう

内 容：生き物に関すること、研究成果、自然観察会のお知らせ、センターの業務等

サ イ ズ：B3表裏、フォントなどは紙面に応じて変更

発行間隔：3か月に一度発行、創刊号は2009年8月

配 布：新聞折り込みで、菅平地区約350世帯に配布

編 集：技術職員、Microsoft Word

印 刷：当センターの印刷機を使用

第2号以降は有限会社東郷堂（新聞販売店）のご協力により折り込み費用は**無料!**  
配布数は菅平地区と上田真田地区の一部約**4,500世帯**に!!

## II. 第7号



2. 生き物通信 第7号

### 第6号までとの違い

- サイ ズ：B3表と裏の半分 ← 記事の量は少し少なくなる
- 発行間隔：休日日の前日(1, 5, 8月を除く) ← 年4回発行が、年10回発行に激増!!
- 配 布：新聞折り込みで上田真田地区約35,000世帯 ← 以前の約10倍! 創刊号からはなんと100倍!!
- 印 刷：用紙も含め東郷堂が担当 ← 裏映りの少ない光沢紙で印刷もキレイ!

## III. 第8号～第10号



3. 生き物通信 第10号

## IV. 第11号～



4. 生き物通信 第30号

## V. 週刊うえだのコラム



5. 週刊うえだのコラム

### 週刊上田のコラム掲載

当センターの社会貢献活動の広報にご協力いただいている週刊上田新聞社が生き物通信を見て、「週刊うえだ」にコラムを掲載してほしいと依頼があった。2011年7月から一面に160文字程度のコラムを掲載している。初年度は教職員が中心となり、記事を書いた。2年目はセンターの常駐学生も加わった。3年目はセンター公開講座の受講生であるナチュラリストの記事が掲載されている。2014年6月までの掲載予定となっている。

※ 週刊うえだ：長野県上田市・東御市などを中心に、毎週土曜日に発行されている地域のミニコミ誌。発行部数は約72,000。

### まとめ

週刊上田新聞社にも助言いただいたことであるが、読者からの反響はなかなか届かない。反響が出るまでにはそれなりの時間が必要で、地域に定着する、固定読者が増える、というようなことが必要らしい。

今後も読者にわかりやすく、興味深い広報誌を製作していけるよう紙面に工夫をしていきたい。外部に向けて何かを定期的に発行していくことは簡単ではないが、大学の成果を一般に伝えることも我々の重要な業務の一つであるため、未長く継続していけるよう努めていきたい。

### 謝辞

菅平生き物通信の発行にあたり、有限会社東郷堂、株式会社サンビームにご協力いただきました。週刊うえだのコラム掲載にあたり、週刊上田新聞社にご協力いただきました。記事の執筆にあたり、当センター関係者だけでなく、センターを利用していただいている多くの方にご協力いただきました。深く感謝いたします。

### 第7号までとの違い

○株式会社サンビーム（総合デザイン会社）との共同編集※  
※：センターが編集生き物通信の残リスペースに『東郷堂のお知らせ』を追加するため、データのやり取りがある

### ○編集ソフトの変更※

※：Adobe社のInDesign  
サンビームの担当者と打ち合わせの結果、互換性のあるソフトを新たに購入した

### 第10号以降

発行回数は増えたが、記事の担当者を事前に決めるため負担は大きくない。プラットフォームもでき、編集ソフトの使用にも慣れたため以前より作業は簡単になってきた。

一番の課題は締め切り。